

町田税務署長賞

『税がつなぐ、私たちの未来』

町田市立町田第一中学校 3学年 本間 大雅

朝、目を覚まして登校するまでの間に、私たちはすでに「税」の恩恵をいくつも受けている。蛇口をひねれば安全な水が出て、道は舗装され、信号は整備されている。学校では先生がいて、教科書があり、給食がある。これらの多くが、実は税金でまかなわれている。私たちの暮らしを下から支えているのが税だ。見えないところで、社会の基盤をつくっている。たとえば、火事が起きたときに駆けつけてくれる消防士、病気の人を助ける救急車、災害時に避難所を運営する自治体の職員。その全てに、税金が関わっている。

では、なぜ人は税を払うのだろうか？それは「自分のため」でもあり、「誰かのため」でもあるからだ。税は、自分一人では手に入れない安全や安心、教育や福祉を、社会全体で分かち合うための仕組みである。お金持ちもそうでない人も、子どもも高齢者も、病気の人も健康な人も、すべての人が共に生きていくための「約束」なのだと思う。

一方で課題もある。たとえば、少子高齢化により、働く人が減ることによって税収が減り、医療や介護にかかる支出は増えている。限られたお金の中で、どうやって必要な支援を行うか。税の使い方に対し

て、国民一人一人が関心を持つことが、ますます重要になるだろう。自分は現在も将来も納める側になる。だからこそ、今から税についてしっかりと知っておきたい。どこに、どんなふうに税が使われているのか。誰かに任せきりにするのではなく、自分で学び、考え、選ぶ力を持ちたい。たとえば選挙に行くこともその一歩だと思う。

税とは、単なるお金のやりとりではない。それは「支え合い」であり、「未来への投資」だ。今、税によって支えられている私たちが、次は税によって社会を支える側になる。そのバトンを、どう受け取り、どうつないでいくのか。その答えを、私たちはこれから生き方の中で探していかなければならない。だからこそ私は、これからも「税」について学び続けたいと思う。ただ支払うだけのものではなく、使い道や仕組みを知ること、自分の考えを持てるようになる。

私たちはまだ若く、税を多く払う立場ではないかもしれない。でも、社会を担う未来の一員として、知ること、考えること、選ぶことはすでにできる。むしろ今だからこそ、柔らかな頭で偏見なく学び、将来への土台を築くことができるはずだ。

税は、社会という大きな船を動かすエネルギーであり、その舵をどこに向けるかは、私たち一人一人の意志にかかっている。税をただ「とられるもの」と見るのではなく、「未来をつくる力」として捉えることができるなら、私たちはきっと、もっと豊かで、希望のある社会を築いていけるだろう。そして、そうした未来を築く最初の一步が、「税を知ること」なのだと、私は信じている。